

青少年交流事業の開催結果について（報告）

- | | | |
|---|-----------------------------------|----|
| 1 | 「青少年国際平和未来会議2021（第17回）」開催結果 | 3 |
| 2 | 「2021広島市・大邱広域市青少年交流事業（第20回）」開催結果 | 7 |
| 3 | 「令和3年度広島・長崎市児童生徒平和のつどい（第43回）」開催結果 | 11 |

「青少年国際平和未来会議 2021（第17回）」開催結果

1 目的

広島市の姉妹・友好都市等の青少年と本市の青少年が互いに世界平和について考え、意見を交換し合うことにより、友情と相互理解を深めるとともに、広く世界の国々の青少年に核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を伝え、次代を担う青少年の世界平和への意識を高めることにより、グローバル人材の育成を図る。

2 主催

青少年国際平和未来会議実行委員会

(構成：一般社団法人広島国際青少年協会、広島市教育委員会、広島市ほか)

3 事業期間

令和3年7月4日(日)～11月20日(土)

※ オンライン会議 令和3年8月2日(月)～15日(日)

4 参加者

参加都市7か国8都市(34名)

広島市 8名(高校生5名、大学生3名)

姉妹・友好都市 ボルゴグラード市、ハノーバー市

その他の都市 バンコク都、成都市、モンティンルパ市、サンクトペテルブルグ市、テヘラン市

5 年間の取組

令和3年度の青少年国際平和未来会議は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度と同様に当初予定していたボルゴグラード市での会議開催を見送り、ボルゴグラード市が主催し、オンライン会議形式で実施した。

本市は、ボルゴグラード市が主催する2週間にわたるオンライン会議に参加する青少年を公募し、事前研修等を実施した。研修では、「未来会議に参加するための心構え」、「国際理解」、「被爆の実相」等について学んだほか、本市の平和への取組や、文化紹介に関するプレゼンの準備を行い、オンライン会議において発表した。

構成	日時	形式・場所	内容
事前研修	7月4日(日) 10:00～12:30	集合 (平和文化センター 研修室)	・自己紹介・アイスブレイク・役割分担 ・講話「青少年国際平和未来会議の歴史と主旨について」 井内委員長 ・講話「国際交流・異文化理解について」 松本委員(広島市立大学国際交流推進センター長)
	7月11日(日) 10:00～12:30		・アイスブレイク ・平和記念資料館見学 ・原爆詩朗読収録 ・プレゼン準備
	7月25日(日) 10:00～12:30		・被爆体験講話聴講 ・慰霊碑等紹介収録 ・プレゼン準備
	8月1日(日) 10:00～12:30	集合 (中区地域福祉センター 会議室)	・「ボルゴグラード市について」紹介・プレゼンリハーサル ・講話「記憶の継承」平和記念資料館 滝川館長
平和記念式典	8月6日(金) 7:00～9:30	集合 (平和記念公園)	・平和記念式典参列
オンライン会議	8月2日(月)～ 8月15日(日) 18:00～19:30 (主催：ボルゴグラード市)	オンライン	・開会式 ・各都市紹介と平和への取組 ・講演 ・グループづくり、討議、意見交換 ・文化交流(各都市プレゼン) ・閉会式

事後研修	10月20日(水) 19:00~21:00	オンライン	・オンライン会議後の活動報告 ・国際フェスタ2021での活動報告の準備
事業報告	11月20日(土) 13:00~13:30	集合 平和文化 センター 研修室	・国際フェスタ2021での活動報告
事後研修	11月20日(土) 13:30~14:00		・ヒロシマ平和未来大使委嘱状の交付と振返り

6 成果

- 事前研修においては、平和記念資料館見学や被爆体験講話を通して被爆の実相を学ぶとともに、平和記念式典に参列することができた。コロナ禍での式典は、ごく限られた人しか参加できないにも関わらず、本市の青少年代表として参列することの意味をしっかりと考えながら、世界恒久平和やそれぞれが育てた「ヒロシマの心」を自ら世界へ発信する意識を高めることができた。
- 事前・事後の研修では、リーダーを中心に役割分担をし、参加者が自ら研修を進行するほか、プレゼンの準備などに、主体的に取り組むことで、高い意識をもってオンライン会議に臨み、オンライン会議のグループにおいて6グループ中4グループのリーダーを本市青少年が務めるなど、語学力に自信が無くても積極的に発言し、会議をリードすることができた。
- 対面型の国際交流が困難である中で、2週間にわたりオンライン会議に参加することができたこと、そして、世界各地のメンバーと価値観の違いを乗り越え、お互いを尊重し合いながら、交流や意見交換ができたことはよかった。
- 与えられた課題は、インスタグラム等SNSに投稿しながら取り組む内容のものがあり、他都市の青少年と楽しみながら交流を深めることができた。また、会議時間終了後も、それぞれのグループ内のメンバー同士がチャットアプリ等により個別に課題に関する意見交換を続け、時間という制約を克服しながら取り組み議論も深まった。
- 参加者からは、「『話し合う力』を身につけることができた」、「価値観の違いを受入れ、相互に意見を尊重し合うことが大切であると感じた」、「自然に涙があふれ、価値観が大きく変わった」、「大切な友達がたくさんできた」、「ここで学んだことを自分の将来に生かせるよう、行動したい」などの、感想が寄せられ、本事業が、自己の変容に繋がる貴重な時間となったと考えられる。
- ヒロシマ平和未来大使委嘱状交付式後、今回の活動全体を振り返り、互いの気持ちを伝え合うことで、参加者全員の事後活動へのモチベーションの向上に繋がった。

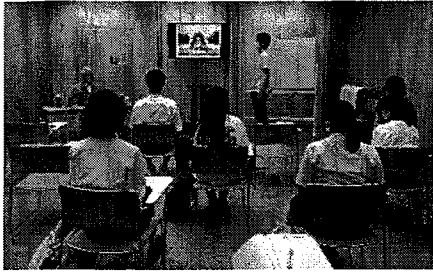
7 課題と対応

- 新型コロナウイルス感染症の影響により来年度のボルゴグラード市での開催も不透明な状態である。開催方法や期間について、同市を始めとする姉妹・友好都市等参加各都市と更なる連携を図り、検討する必要がある。
- 2週間のオンライン会議が終わった後、それぞれのグループはSNSを使って平和貢献活動を発信し続けているが、閲覧数が乏しい状況である。ついては、さらに世界各都市の市民にこうした活動を知ってもらえるよう、参加各都市のホームページなどへ掲載を依頼するとともに、参加者各自のネットワークを通して拡散するなど、発信力を向上させる必要がある。
- 参加者主体の事業とするために、意識が高い参加者を選考することが重要である。ついては、今年度と同様にオンライン会議をリーフレットやDVDにまとめ、具体的な活動内容について本市ホームページなどを活用するほか、各学校に対し個別に周知する必要がある。

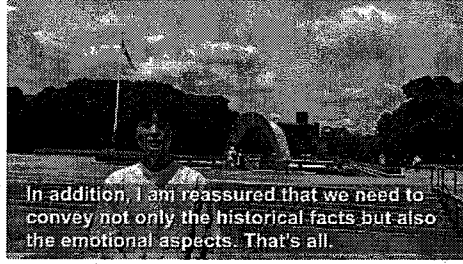
8 参加者の感想

- ・ 事前研修については、世界平和実現のために日々活動している方々からお話を聞かせていただき、メンバー全員が刺激を受けました。私達の世代はこれから社会のリーダーとしてバトンを受け継ぐのだという自覚を持つと共に、世界平和実現のために具体的にどう動けば良いのかを考えるきっかけとなりました。また、会議に向けて広島メンバー同士のチームワーク力を高め、事前準備は互いに助け合いながら進めることができました。
- ・ ようやく迎えた参加国の人々とのオンライン会議では沢山の意見を知ることができ、また、どこの国に生まれたからといって平和への思いは変わらないと感じました。そして、過去に自分の国が犯した過ち、反省、戦争について知りました。言語の壁があり、上手く言葉にして伝えられないのを歯痒く思いながらも、皆が意見に耳を傾けて伝えたいことを汲み取ってくれているのを嬉しく思いました。
- ・ グループ内で意見が対立し、ぎすぎすした雰囲気になった時もありましたが、皆の恒久平和実現への気持ちの強さと自己をしっかりと主張できる力を見ることができ、少し嬉しかったです。
しかし、自分の意見を一方的に主張して終わるのではなく価値観の違いからも考えて、相互の意見を尊重し、受け入れ、受けとめてあげることが相互理解を深めたり、国家間の関係を改善したりするためにも必要な考え方なのではないかと感じました。
- ・ 私たち広島市民は、平和といえば8月6日の出来事が1番に思いつくと思います。ですが、海外メンバーは原爆のことについて詳しく知らない人がほとんどで、ショックを受けました。同時に、私も皆の国や町の悲劇を全く知りませんでした。このことに気づいて、とても自分の視野が広がったように感じます。
- ・ 平和について広島の視点から発信することはとても大切だと思いますが、日本に被害を受けた人も世界には大勢いること、原子爆弾だけが平和の尺度ではなく、他の県や他の国でも戦争によって与えられた悲惨な過去があるということを忘れず、相手を尊重しながら対話を進めることが1番の平和への近道だと思います。海外で様々な視点から広島について伝えられる人になりたいと改めて強く思いました。
- ・ チームメンバー皆が言語や文化関係なく優しくしてくれて本当にうれしかったです。最後の会議が終わった後に皆で電話をしたとき、自然に涙が出たのは自分でもびっくりしました。価値観を大きく変えられて、大切な友達がたくさんできました。参加できて本当に良かったと思います。
- ・ 自分の英語能力のなさを実感しました。自分の思うことを思う通りに伝えられないというのはとてももどかしく、これからもっと勉強しようという気持ちを高めることもできました。海外の若者とチームを組んだことにより、仲良くなれたこともとても嬉しく、これからも連絡を取り続けていけるといいなと思います。IYCPF2021に参加して本当に良かったと心から思います。まだ活動は終わりではないので、これからの活動も精一杯頑張っていこうと思います。また、活動が終わったあとも、ここで学んだことを自分の将来に活かせるよう、行動していこうと思います。

《活動の様子》



研修：被爆体験講話



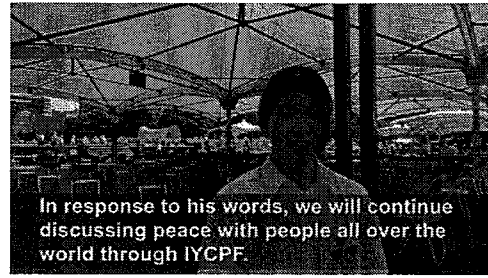
被爆体験講話 感想の収録



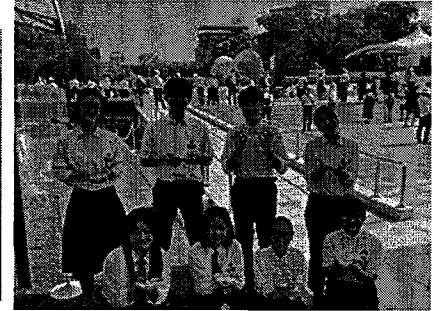
研修：記憶の継承 聴講



研修：ボルゴグラード市の紹介



平和記念式典に参列した感想収録



折り鶴を折って記念撮影



オンライン会議の様子



グループワークの様子



国際フェスタ 活動報告の様子



委嘱状交付式

「2021 広島市・大邱広域市青少年交流事業（第20回）」開催結果

1 目的

広島市の青少年が姉妹都市である韓国大邱広域市の青少年との交流を行うことにより、本市と大邱広域市の青少年の相互の友情を深めるとともに、世界平和への意識を高める。

2 主催

広島市・大邱広域市青少年交流事業実行委員会

（構成：広島県日韓親善協会、広島市教育委員会、広島ユネスコ協会、NPO 法人友愛アカデミー）

3 事業期間

令和3年10月17日（日）～12月5日（日）

※ オンライン交流 令和3年11月6日（土）、7日（日）及び14日（日）

4 参加者

広島市 47名 [青少年41名（中学生13名、高校生28名）、指導者（通訳含む）6名]

大邱広域市 31名 [青少年27名、指導者（通訳含む）4名]

5 年間の取組

今年度は、大邱広域市に青少年を派遣し、交流活動を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催方法を変更し、両市青少年がオンラインで交流した。

構成	日時	形式・場所	内容
事前研修	10月17日(日) 13:30～17:00	集合 〔ひと・まちプラザ マルチメディアスタジオ〕	オリエンテーション グループ別ディスカッション
	10月24日(日) 13:30～17:00	オンライン	語学研修（韓国語） 文化理解（韓国 大邱広域市） ディスカッションスキルの習得
オンライン 交流	11月6日(土) 15:00～17:00	オンライン	グループ別ディスカッション 両市の青少年が、小グループに分かれて グループ別のテーマについて話し合う。
	11月7日(日) 14:00～16:00		資料作成 成果報告会に向けて説明資料を作成する。
	11月14日(日) 14:00～16:00		成果報告会（グループ別発表）
事業報告	11月20日(土) 12:30～13:00	オンライン	国際フェスタ 2021（主催：広島平和文化センター） 今年度のオンライン交流の報告
事後研修	12月5日(日) 13:30～17:00	集合 〔市役所 講堂〕	交流活動の振り返り 文化理解（朝鮮通信使講座）

6 オンライン交流について

(1) グループ活動

オンライン交流では、両市青少年を含む7グループ（1グループ9～10名）が、3日間、同じメンバーで活動することで、活発な意見交換を行い、テーマに関するグループの意見をまとめることができた。

なお、各グループには、両市の大学生などによる通訳ボランティアを2名程度配置し、それぞれ韓国語や日本語が話せなくても意思の疎通が図れるようにした。

(2) 話し合いテーマ

両国の文化を理解することや、文化の共通点や相違点に気づき、その理由について自分なりに考えることをねらいとして、各都市の青少年の生活など身近な9つの項目をテーマとして設定した。グループごと、話し合いによりテーマを選択し、ディスカッションを行った。

(3) 成果報告

オンライン交流の最終日には、各グループ2名の代表者（両市1名ずつ）が、選択したテーマについて説明資料を画面共有しながら発表した。大邱市の青少年が日本語で発表し、本市の青少年が韓国語で発表するなど、発表の仕方を工夫したグループもあった。

7 OB組織について

(1) 結成までの経緯

令和元年度に大邱広域市を訪問したメンバーが、帰国後、所属学校での成果報告や街頭での日韓関係に関する意識調査など自主的な事後活動に取り組む。

令和2年度、新型コロナウイルス感染症の影響で広島を訪問できなかった大邱の青少年のために、同メンバーが広島を韓国語で紹介する動画作品を作成し、オンライン交流会で披露した。

令和3年度、同メンバーによるOB組織を発足し、本交流事業のサポート活動等を行う。

(2) 結成の目的

- ・ 本交流事業に参加し、国際交流活動への意欲を高めた参加者に、1年限りではない長期的な視点での事後活動の場を提供する。
- ・ 本交流事業及びその他の国際交流活動の運営支援を行うことにより、広島市の姉妹都市である大邱広域市との永続的な交流に寄与する。

(3) メンバー

令和元年度に大邱広域市を訪問した参加者のうち10名

〔大学生5名（うち2名は韓国留学中）、高校生5名〕

(4) 今年度の活動

日	時	形式・場所	内容	備考
8月29日(日)	15:00～16:30	オンライン	結成式（会則、今後の活動）	
9月26日(日)	10:00～12:00	オンライン	定例会①（サポート活動検討）	
10月3日(日)	15:00～17:00	オンライン	定例会②（サポート活動検討）	
10月17日(日)	13:30～17:00	ひと・まちプラザ	事前研修会 運営サポート	ゲストティーチャー
10月24日(日)	9:00～12:00	縮景園	動画撮影（縮景園、市内電車）	
10月31日(日)	10:00～14:00	青少年センター	動画撮影（韓国で作れる日本料理）	
11月3日(水・祝)	10:00～16:30	錦帯橋	動画撮影（岩国錦帯橋）	
11月14日(日)	14:00～16:00	オンライン	オンライン交流会 運営サポート	広島市の紹介プレゼン
11月20日(土)	12:30～13:00	オンライン	国際フェスタ2021 成果報告	
12月5日(日)	13:30～17:00	市役所講堂	事後研修会 運営サポート	ゲストティーチャー

8 成果

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に引き続き、お互いの国を訪問して対面での交流活動ができない中で、オンライン上ではあるが交流を継続できたことはよかった。
- ・ 長期間に渡るコロナ禍で国際交流活動が制限される中で、人数の制約が少ないオンラインの特性を生かして、より多くの青少年に貴重な機会を提供することができた。
- ・ オンライン交流では、各グループがテーマを決めて話し合い、その成果を報告する資料作成を行う活動を設定した。令和2年度に初めて行ったオンライン交流に比べて、オンライン交流のプログラムを充実させることができた。
- ・ OB組織が経験者として、参加者のニーズに沿った交流プログラムの企画などを行うとともに事前研修などではゲストティーチャーとして「ホームステイの準備」、「韓国での大学生活」など、参加者が興味のある話題についてミニ講座を行った。
また、オンライン交流会では、大邱の青少年に向けて広島市紹介のプレゼンを行うなど、自主的な事後活動を継続するとともに、本交流活動の内容の充実に貢献している。
なお、OB組織のメンバーの1名が、本市の姉妹都市友好のために活動する「ヒロシマ・メッセンジャー」の令和4年大邱広域市担当として選ばれ、活動の幅を広げている。

9 課題と対応

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化しており、令和4年度も対面交流は難しいことが予想される。
ついては、オンラインによる交流活動の事業計画を立案する。大邱広域市と連携、調整した上で、OB組織や関係者の協力を仰ぐなどして、交流プログラムの更なる充実を図る。
- ・ オンラインの研修や交流会では、通信障害等により、スムーズな運営ができないことがあった。
また、自宅等の通信環境により、参加したくても参加できない者がいることも予想される。
ついては、通信環境が整った会場を準備したり、事前の通信確認を入念に行ったりするなど、デジタルディバイドに配慮した運営を行う必要がある。

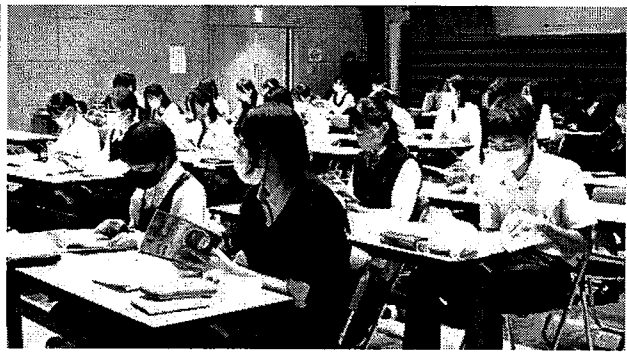
10 参加者の感想（概要）

- ・ 大邱広域市との国際交流に参加し、印象に残ったのは、人の温かさについてです。実際に韓国の青少年達と交流をする前、少し不安がありました。私のたどたどしい韓国語で、国も言語も違う人たちとコミュニケーションできるのか、そんな不安が残るまま参加しました。皆さん温かくお話ししてくださり、すぐに不安や緊張はほぐれました。交流の中で日本や韓国のことを話したり、意見交換したりすることができ、私自身成長できたように感じます。(中学2年生)
- ・ 交流が終わった後もSNSなどで互いの国のコロナの状況を聞きあったり学校の話をしたりと仲良くできていて、私は基本韓国語で話をしているので韓国語の実力も伸びてきているので嬉しいです。
この体験を通して住んでいる国は違っても同じ時代を生きる友達であり、互いのことを知り仲良く話すことができるということを知りました。今後は、韓国だけでなく他の国の人たちとも話しているんな考え方を知っていきたいと思います。また、身近にいる友達などに韓国の友達はこんなことをしているみたいだよと交流をして分かったことを共有していこうと思います。(高校2年生)
- ・ 私は今回が初めての交流事業であり、初めての学外活動でした。今まで自分の意見を言う自信がなくあきらめていました。しかし今回の交流事業に参加したのは以前から韓国に興味があり、自分のコミュニケーションスキルの向上につながると思ったからです。今回の交流会を経て私は留学をしたいと考えています。現在、私は学校で英語を学んでおり、半年間の語学研修にも参加しました。そこで言語を学ぶ楽しさを知り、別の言語についても学びたいと思うようになりました。コロナが終息したら韓国に留学してたくさんのことについて学べたらなと思っています。(高校2年生)

《活動の様子》



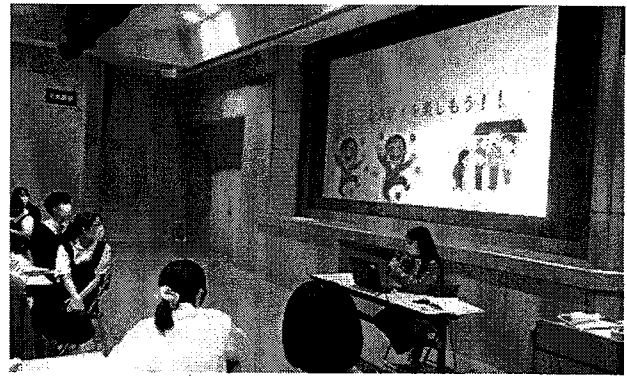
オンラインによる事前研修の様子 (Zoomの画面)



事前研修の様子 (OB組織作成ガイドブックによる学習)



事前研修の様子 (グループディスカッション)



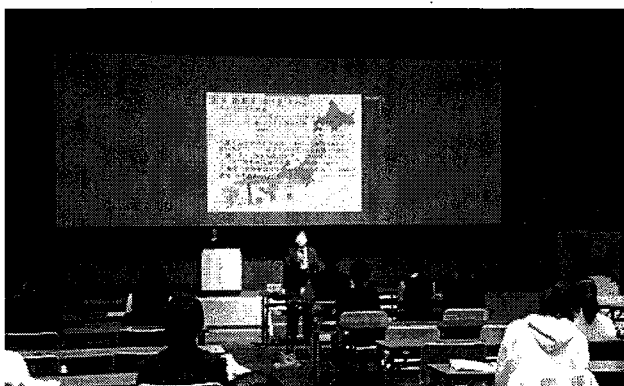
OB組織によるミニ講座 (ホームステイの準備について)



OB組織の活動の様子 (縮景園での動画撮影)



国際フェスタ 2021 でのオンラインによる報告の様子



事後研修の様子 (朝鮮通信使講座)



大邱で、広島で、きっとまた会おう！
대구에서 히로시마에서 꼭 다시 만나요!

参加者の様子 (国際フェスタ 2021 報告資料より)

「令和3年度広島・長崎市児童生徒平和のつどい（第43回）」開催結果

1 目的

広島・長崎両市の児童生徒が交互に訪問し合い、平和学習を通じて平和意識の高揚を図るとともに、世界恒久平和の実現に貢献する意欲と態度を育む。また、集団生活や体験学習を通じて、友情と親睦を深めるとともに、自主性や社会性を育てる。さらに、青少年リーダーとしての指導力や実践力を養う。

2 主催

広島・長崎市児童生徒平和のつどい実行委員会
〔広島市子ども会連合会（担当：安佐南区子ども会連合会）、広島市教育委員会〕

3 事業期間

令和3年7月18日（日）～10月24日（日）
※ オンライン交流 令和3年10月10日（日）

4 参加者

広島市子ども会連合会（担当：安佐南区子ども会連合会）
30名〔児童生徒15名（小学生10名、高校生5名）、指導者15名〕
（オンライン交流参加者 18名〔児童生徒9名（小学生8名、高校生1名）、指導者9名〕）
長崎市子ども会育成連合会
29名〔児童生徒15名（小学生3名、中学生7名、高校生5名）、指導者14名〕

5 年間の取組

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年4月以降子ども会の活動自体が縮小または中止を余儀なくされる中、本事業についても、広島市での受入を中止せざるを得なかった。しかし、両市の「友情の絆」を絶やさないう、各市で研修会を行い、オンライン交流会でその成果を発表した。
- 事業概要や参加者が書いた感想文を「感想文集」として作成し、広島市内の各学区の子ども会や安佐南区内の小中学校に配布する。

構成	日時	場所	活動内容
事前 研修	7月18日（日） 13:30～17:00	祇園公民館	結団式、事業説明、グループづくり、平和学習 等
平和の つどい	10月9日（土） 13:00～17:00	安佐南区地域 福祉センター	オンライン交流会準備
	10月10日（日） 8:40～16:10	平和記念 公園など	平和学習（参拝・献花、折鶴献納、慰霊碑めぐり、平和記念資料館見学等） 長崎市とのオンライン交流会 ・ 開会行事（広島市子ども会連合会代表挨拶） ・ 広島市からの発表 ・ 長崎市からの発表 ・ 意見交換 ・ 閉会行事（長崎市子ども会育成連合会代表挨拶） ・ 記念撮影
事後 研修	10月24日（日） 10:00～12:00	安佐南区地域 福祉センター	活動の振り返り、感想文提出、お礼の手紙作成 等

※当初8月に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大により、10月に延期した。

6 事前研修等

- ・ 7月18日は、平和活動に取り組む「Face to Peace」及び「高校生平和大使」の高校生、大学生等ボランティアの協力により、オンライン交流会の発表に向けた平和学習を行うとともに、安佐南区子ども会連合会リーダーズクラブによるレクリエーションを通じた仲間づくりを行った。
- ・ 10月9日は、平和学習で学んだこと等を基に設定したテーマについて、インターネットなどを活用し、指導者やリーダーの助言を得ながら、班ごとに発表資料を作成し、リハーサルを行った。
- ・ 10月10日午前中は、高校生、大学生等ボランティアの協力により、旧陸軍被服支廠、平和記念資料館の見学や、平和記念公園内の慰霊碑めぐりなどを実施した。

7 オンライン交流会

- ・ 広島市からの発表では、1班は「なぜ広島に原爆が落とされたか」と「広島弁」、2班は「広島の復興」と「原爆ドームとおりづるタワー」について発表した。
- ・ 長崎市からの発表では、長崎市出身の著名人やお祭りなどについてのクイズや、長崎の原爆による被害の状況や被爆遺構について発表があった。
- ・ 意見交換では、平和学習や名物（お好み焼き・カステラ）を食べる頻度など質問形式で意見交換を行い、両市に対する理解を深めた。

8 事後研修

- ・ グループワークで活動の振り返りを行うとともに、長崎市の児童生徒や高校生、大学生等ボランティアに対してお礼の手紙を作成した。

9 成果

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、対面による平和のつどいは中止としたが、オンライン交流を行うことにより、来年度の交流に向けた意欲の醸成を図ることができた。
- ・ オンライン交流を通して、両市に対する理解を深め、友情を育むことができた。
- ・ 平和学習を通して平和意識を醸成し、世界恒久平和の実現に貢献する意欲と態度を育むことができた。
- ・ 平和活動に取り組む高校生、大学生ボランティアから学ぶことで、被爆の実相や平和への思いを次世代に伝えるための活動に対する認識を深めた。

10 課題と対応

- ・ 来年度は、長崎市での開催を予定している。新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、実施方法について、長崎市と連携しながら、実行委員会（広島市子ども会連合会、広島市教育委員会）で協議し検討する必要がある。
- ・ 来年度以降においても、平和についての学びを一層深める交流を行うとともに、両市の児童生徒が平和について学んだことを成果物として残せるような活動が実施できるよう、実行委員会（広島市子ども会連合会、広島市教育委員会）で協議し検討する必要がある。

11 参加者の感想（一部抜粋）

- ・ 長崎市とのオンライン交流会では、長崎に落とされた原爆の方が威力は強かったけど、山に囲まれていたので長崎市は被害が少なかったことなど、新しいことを知ることが出来ました。僕はこの交流会に参加して本当によかったと思います。（小学6年生）
- ・ 韓国人原爆犠牲者慰霊碑を見て、多くの朝鮮人も原爆の犠牲になったことを知りました。日本人だけでなく、同じように悲しみを味わった人たちの平和への思いも未来に伝えなければいけないと思いました。（小学6年生）
- ・ この平和のつどいで学んだ原爆の恐ろしさや平和の大切さを少しでも多くの人に知ってもらうために、身近な人からこのことを伝えていきたいと思います。（小学5年生）

- ・ この平和のつどいでたくさんのことを知り、改めて平和の大切さ、原爆の恐ろしさを感じ、今ある日常がいかに幸せであるかを実感しました。これから、世界が平和になるために、学んだことを1人でも多くの人に伝えていきたいと思います。 (小学6年生)
- ・ 今回、色々な方々に教えていただいたことを、これからもずっと忘れないようにしていきたいし、広島と長崎は世界で二つだけの原爆が落とされた地域なので、お互いのことについてもっと知り、次の世代の人達にも伝えていきたいです。 (小学6年生)
- ・ 他の県の人たちにも広島と長崎のことを知って欲しいと思いました。そのために広島や長崎では色々な人たちが協力し頑張っているのだと分かりました。 (小学5年生)

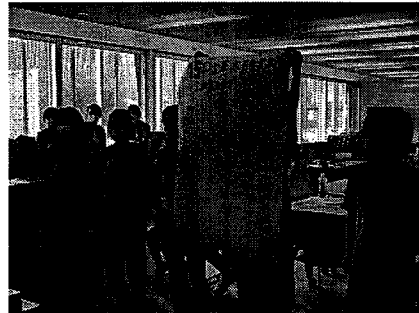
《活動の様子》



事前研修 平和学習



事前研修 仲間づくり



発表準備・リハーサル



旧広島陸軍被服支廠見学



原爆死没者慰霊碑参拝・献花



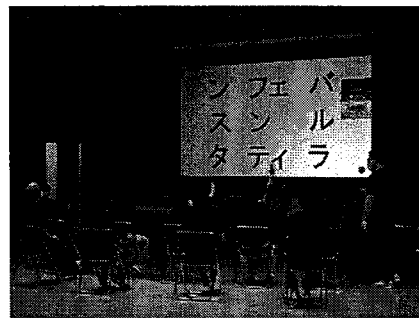
原爆の子の像への千羽鶴献納



慰霊碑めぐり



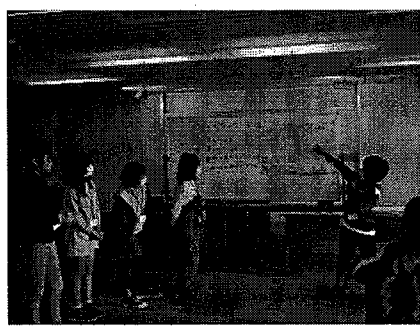
オンライン交流会 広島市からの発表



オンライン交流会 長崎市からの発表



オンライン交流会 記念写真



事後研修 グループワーク発表



長崎市へのお礼の手紙